教草女房形氣

山東京山著

巻十

へ13
3580
10

門へ13
號 35ゑし
巻 10

明屠赤水著
東溪源瀛校
考槃餘事 白紙摺明朝經 大房當全愛必用之書也 本全四冊

題画詩刪 全二冊

題画詩選 全壹冊

奥疑先生撰輯

書畫皆宜 白紙摺明朝經 悉へ本全三冊

書家必用の小冊諸君子常に案上に備置あるべき
世翻刻本を得難く寫紙にて旅行又は懷
中に携へ詩題画題を作り絶句
聯句に作る便あり數字半紙に収まる
を貴ぶと撰して編載せるなり此書と彼書と
其自ら得難き珍寶なり可謂小冊の素子
必携の翻易の珍寶なり

書肆 大阪北久寶寺町心齋橋 源七郎梓

早稲田大学図書館 昭和35.1.22 藏

早稲田大学図書館

女房形氣の体を画書肆の謂ふ也 巻毎に
独立せれ今又十編の袷となれり初志の振社と
ならんと先づ夜あけのうし火の灯りあげ京
すがみまぶ汁用ごもいとなぶつるあくまきたけもい
ふやあらんなのれが著れ汁さられとも利ざれとも巻
の絵摸擬八見手なる豊國の下絵あるとび
錦の橋と名ふるぶ板元が十編の襟を拾ふ人く
めでたき初志のうまと著とあるぬ

嘉永二年 庚戌秋星文稿本同初冬梓行同四年辛亥発

八十二翁 山東菴京山

妬婦津の故事
やきもちのわるいことの
ためしなり
りのろこの晉の世大始年中劉
伯玉と云人の妻光明性つよくて妬忌
ふかき故伯玉文藝と云本の中
ふかき故伯玉文藝と云本の中
ふかき故伯玉文藝と云本の中

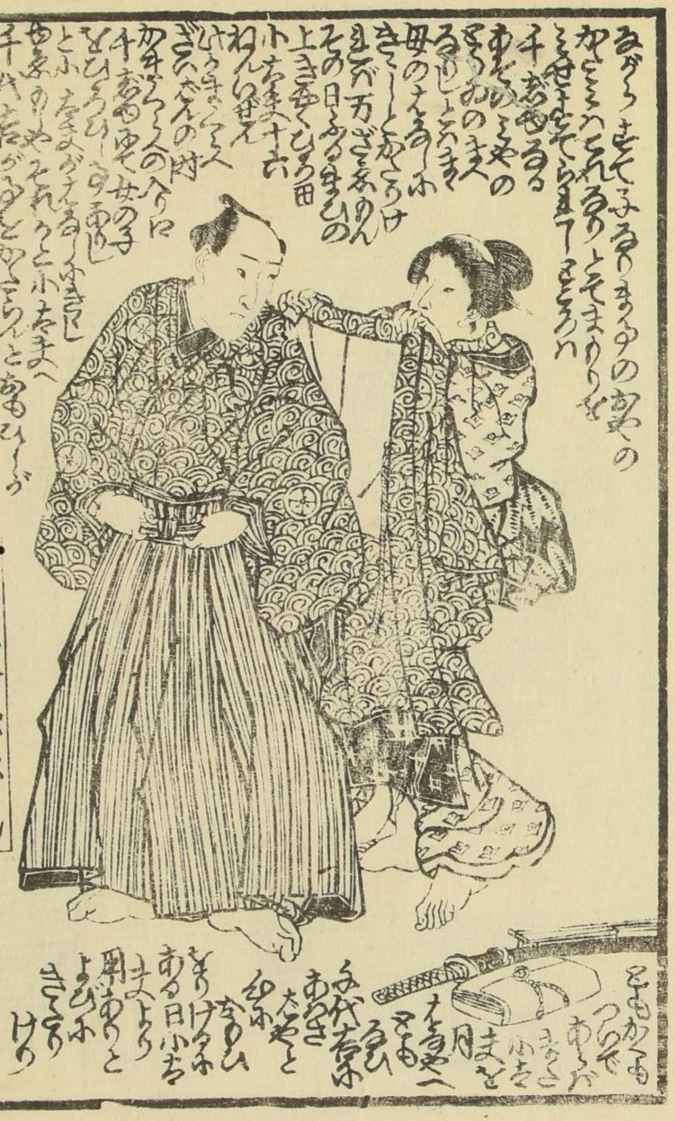
のさまにて出ながれ水ふかく
てし船とるまちとの
のちあらくちぎりんまも
て取よるとうくちのうそ
つきおそれけれどくく
ぎてくあるときりびが
つまのちぎりきえうせ
けるのち伯王いつまぶ
ねをとりびーりいあるう
ぐいてうざ[illegible]とぞあろ
えふかのなどやきのちの
それれんりふぎまろうろ
らくきなりりをいれが
おくふ浪やくるりて
あやまちあしのあとう
みやうちふくきなりて
るりりりみつねのごと
ふやふりりのいてうを
姫婦津と名づくあろ

とのあ酉日雞組の十四
さろ目又太平廣記の百
七十さろ目ものせれば
おしのあ長いてうそのき
のちのそれれ大地とうしの
諸国ふ今もあのあるのまり
おのふかやきのちのくちとりまく
ろりおろるゆるりやきのちを
やうんとうのぐつれのの火を
けてにへいぐさまりれいろうへ
てい者と百くのうくまで
さまれいてい者の風かへ
ずやうとうのあるをあきもし
うへふのうをりりりりをのと
ふふ者ふうとふのるりて又
ふうあとうとあつふうろ
●ふくきぐしのあるもうふ
とふりのつるるるれのど

数州女房形氣
十編初版

万ざえもん
つまかへさ

玉一



三隅

さて方ざるのいい
小なるまうすたち
のでんとなるかいとは廿房
あくこいつわぐ也人まるあくま
きとてくこ多ゑ土一ふかこと
のまもて王一ゑるゑりやの
かゑ廿ゑやけくこと考ゑる
ゑるゑくきのてゑるを方
ざゑのんこれ小きまさあ
までいそろそよ。あへこと
ハイだれそきやだんろゑり
でゑさくハト下女をとりのて
あくこいたきをあんまりませ
ゑくこ三王一これそれうら
だしこてトてゑりやうきう
あさろくるとしろふ
こてなをこりふふくろう
つきろきぐこ三十二ころろ
イけこどんあらみド
ひあへくこうまれつき
すんきぶくゑまく
ゑんてのひゑまくこゑる
ゑりとへへイホゑまる
せかいこそゑるくいかあくこハ

二今あきこゑひゑ考出ゑり
やーくきくへ立ゑりゑふ下女ゆまろ
せてお四ゑんこゑあてゑ考つめ
たゑりのをきくこゑる方ざゑゑりく
ゑの円ゑいろくゑりゑく
ゑりへくゑもひとことゑりゑ
ゑきゑんのゑくゑとかん
みんて立のやけり

三隅

こゑふ又ゑ考たで
ゑのくけゑりのふひゑり
田小ゑまこてとそ
ゑくハ四十八九ゑれ円
いゑホゑりゑさん
ゑんゑこかゑっゑ
ゑのゑくとゑ
ゑり三

ひゑ田
小ゑま

万ざえもん
内ふ
ひろ田
小ちよ
千代吉

から四郎
つまおとこ

五節
万さ
千代吉
ひろ田小ちよ
てらとう平六

女房形気十篇上終

千代吉
平六
つんぢきのたろ

五たろ
小ちよ
かう四郎つまおちよ

月花や清六

おうく

七段
八段
あくく

そらそら
平六
ばいのそ
の七三

千年万年

だんなの仁さ

千代右衛門

▼かくしづまの
小ゑぶより
つゆしの
ゑの千代
ゑがあり
らくあり
ふかりふ
あくらまし
ちぶの事をえ
ゑくくまるをやきもちの
かへまあるをつけるを
一刀ざゑもんいまぐるけり

千代吉

十版

かしに門をゆき
あくじ千里とた
るのうらふくまその
あくらのあるふむさま
ゑぐきあくらの日ごろの
酒のちどりあーつまつきこけ
うるうるんとそのうらのこ月花
やつもあるを一刀ざゑもんもうこ
けれがあやこぶををられうおりん

もぎりの百あふかりのもの
やくそくの七十あゆて千代吉
とめぞうく分うけのかごのをと
らのくせまくもあきてるやねぶま
まべえせのかるる千代吉が
うまーくさいかごとのでうるる
あまをとぬけうろうとのでうる

十一版

かて万ざゑもん千代吉を
つまてよるやとべあちつたてうろ
よるのえっごろうりけり
▲あふ又万ざゑもんがかくー
づまとーしのかのてうをう五六ゆえ
あづけあくふ糸い万ざゑもん
千代吉ふあひそのーより
ちらびあうけまるゆもいハ
あくかさゑもんくうけれども
小ゑぶまもーもやんさのこうろ
ゑきいえ千代吉ゆも万ざゑ
もんゆ　なをめくもんとて
千代吉ざまちうけるぐら
そのよるなかとかれもこうく
けまるやどの中ゆまを

おさか
やきものの
おへそ

千代吉
小糸
あじさの

京山作
豊國画

女房形気十篇下の巻終

彩画出版

彩画出版

彩画出版

彩画出版

彩画出版

重談小說
寝中夏版全
諸州源契